

太陽光発電システム採用者の意識と行動について

2011年4月6日
株式会社住環境研究所

積水化学工業株式会社住宅カンパニー（プレジデント：高下貞二）の調査研究機関である株式会社住環境研究所（所長：倉片恒治、千代田区神田須田町1-1）は、このほど「太陽光発電（以下PV）採用者の意識調査（2010）」を実施しました。

2009年にセキスイハイムに入居されたお客様を対象に、「PV採用前後の意識と行動」などを調査したものです。2010年調査のポイントは、PV余剰電力の買取価格引き上げ（以下新買取制度）によって光熱費収支は大幅なプラスとなり、また、省エネ実践度も高まったにもかかわらず、多くの人々が「まだ節電・節約の余地はある」と考えていることです。更なる省エネを促す機能やサービスを求めていることが注目されます。

住宅各社はPV普及策を受けて、PV搭載商品を積極的にアピール、普及は加速度的に進みましたが、ハード、ソフトの両面での情報がまだ不足しており、節電・節約を促す機能やサービスが更に求められています。

調査結果のポイント

1. 新買取制度は入居後の満足度に効果

PV採用者が入居後に省エネ意識が高まるのはこれまでの調査でも明らかになっていますが、新買取制度の効果はPV採用後の満足度、光熱費削減で効果を発揮しています。

2. PV採用後に省エネ実践度は高まるが、「まだ節電の余地はある」と意欲的

注目したいのは節電状況自己評価です。「じゅうぶん節電・節約できている」と思っている人は11%、9割近くが「節電・節約の余地がある」と回答しており、節電・節約への意識の高さが伺えます。自己評価の高い人は「以前に比べて節電・節約に努めるようになった」「PV電力モニターの画面を常に意識して生活している」など積極的に取り組んでおり、年間光熱費は自己評価の低い人に比べて5万円以上も低額になっています。

3. 節電向上に欲しいものは、現在の電力モニターにない機能・情報

節電機能・サービスへの要望としては「主要な家電ごとの電力消費量と換算料金」、「PV発電量が妥当かの定期診断」、「電力モニターのデータを自分のPCで見られる」「条件が類似した他の家庭との光熱費比較」など。これらは、節電状況自己評価が低い（節電の余地が「大いにある」）人ほど要望が高くなる傾向がみられ、節電を促す機能やサービスとして、電力消費の見える化や省エネ生活のアドバイスを期待していることがわかります。

この件に関するお問い合わせは下記までお願いします
住環境研究所 市場調査室 遠藤 TEL. 03-3256-7571
〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-1 神田須田町スクエアビル8F

調査の概要

調査目的：P V採用による生活や意識面の効果の把握

調査対象：セキスイハイムP V搭載入居者（2009年1～12月入居）

調査方法：調査依頼を郵送、ウェブで回答いただく方式

調査時期：2011年1月に案内書配布、2011年1月末までにウェブで回収

有効回答：1226件

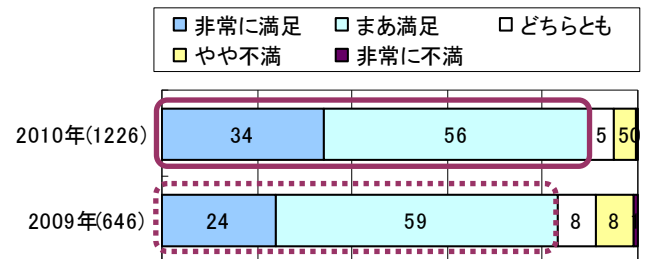
調査結果の概要

1. 新買取制度は入居後の満足度に効果

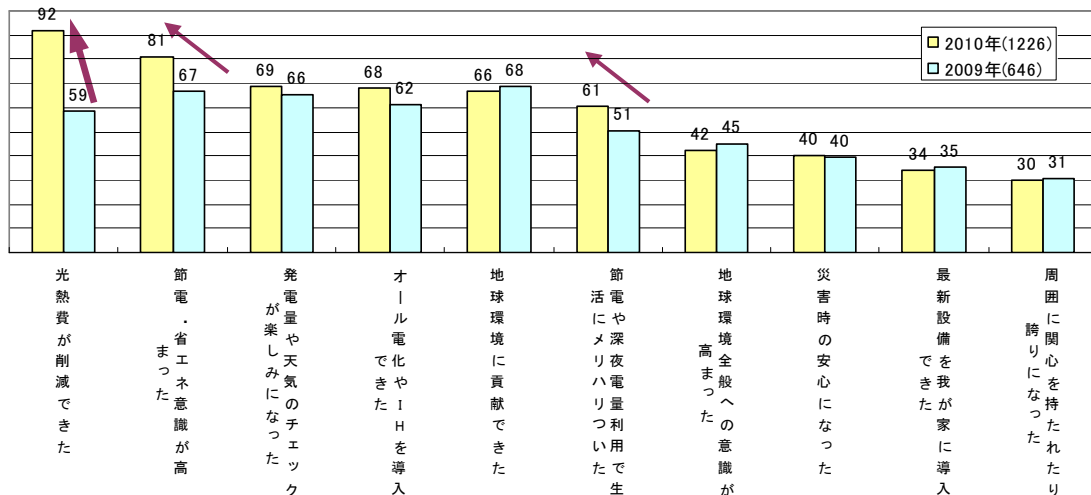
新買取制度の影響度は、P V満足度や光熱費削減で効果を発揮しています。

P Vを採用してよかった点を2009年の結果と比較すると「光熱費が削減できた」、「節電・省エネ意識が高まった」、「節電や深夜電力利用で生活にメリハリがついた」といった点についての評価が高くなっています。

■光熱費満足度 (%)



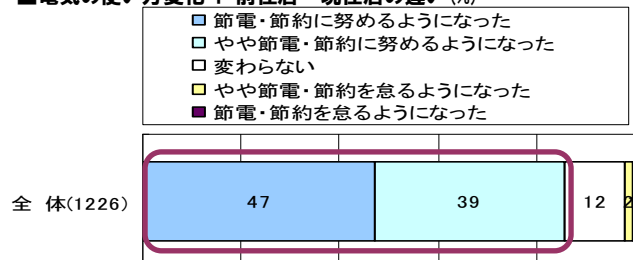
■採用して良かった点・上位10項目 (%) (← 10%以上の差異)



2. PV採用後に省エネ実践度は高まるが、「まだ節電の余地はある」と意欲的

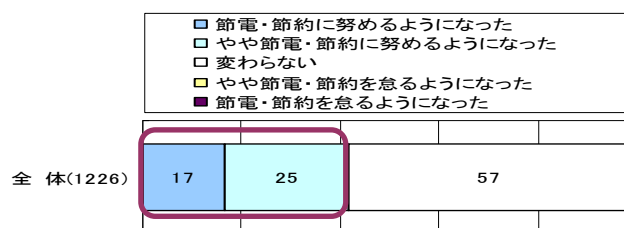
節電意識の変化をみると、前住居の生活に比べて「節電・節約に努めるようになった」(47%)、「やや節電・節約に努めるようになった」(39%)で、9割近くが節電意識は高まったとしています。

■電気の使い方変化 1 前住居→現住居の違い (%)



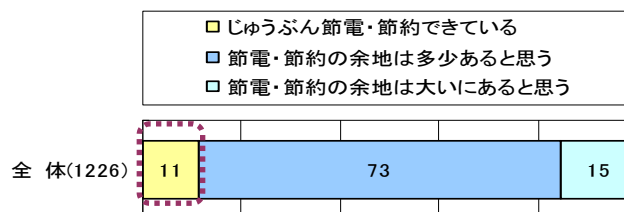
また、新買取制度開始前と後での節電意識の変化については、「節電・節約に努めるようになった」(17%)、「やや努めるようになった」(25%)で、42%に節電意識の向上が見られます。

■電気の使用方変化 2 新買取制度開始前→後の違い (%)



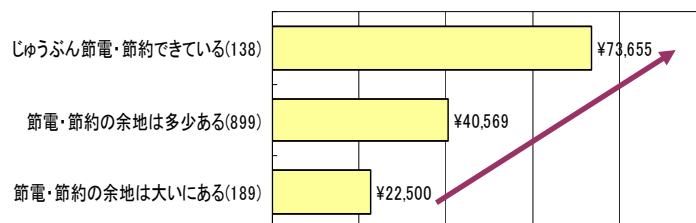
注目は、節電に対する自己評価。節電・節約に努めたが、「十分節電できている」は11%で「節電・節約の余地はあると思う」73%、「余地は大いにあると思う」が15%あり、約9割は節電・節約の余地はまだあると考えています。

■節電状況自己評価 (%)



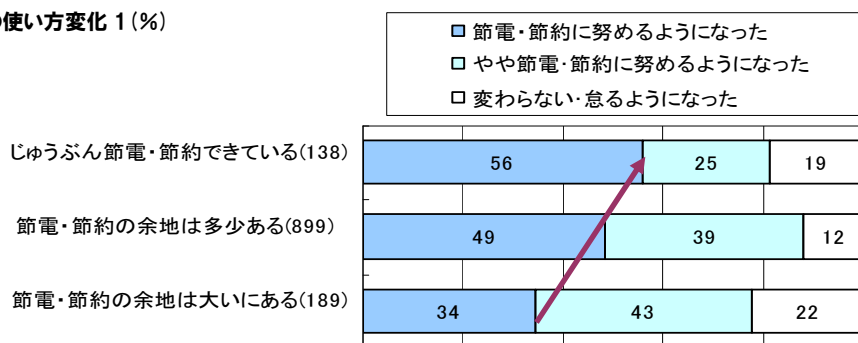
節電状況自己評価で、「じゅうぶん節電・節約できている」とした人の年間光熱費収支は、平均73千円のプラス、「節電・節約の余地が大いにある」とした人は平均23千円のプラスで約5万円もの差が生じています。

■節電状況自己評価別の年間光熱費収支 (平均)

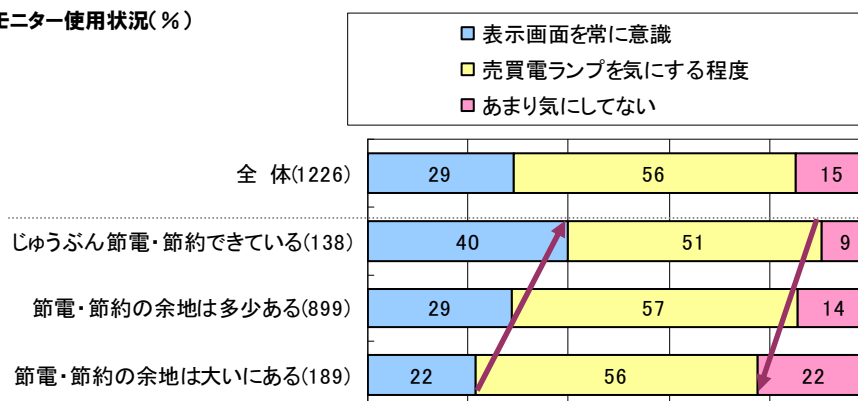


節電状況自己評価が高い人は、「以前の生活に比べて節電・節約に努めるようになった」「PV電力モニターを常に意識した生活」の割合が高く、電力モニターを活用しながら積極的に省エネに取り組んでいることがわかります。

■節電状況自己評価別×電気の使用方変化 1 (%)



■節電状況自己評価×PV電力モニター使用状況 (%)



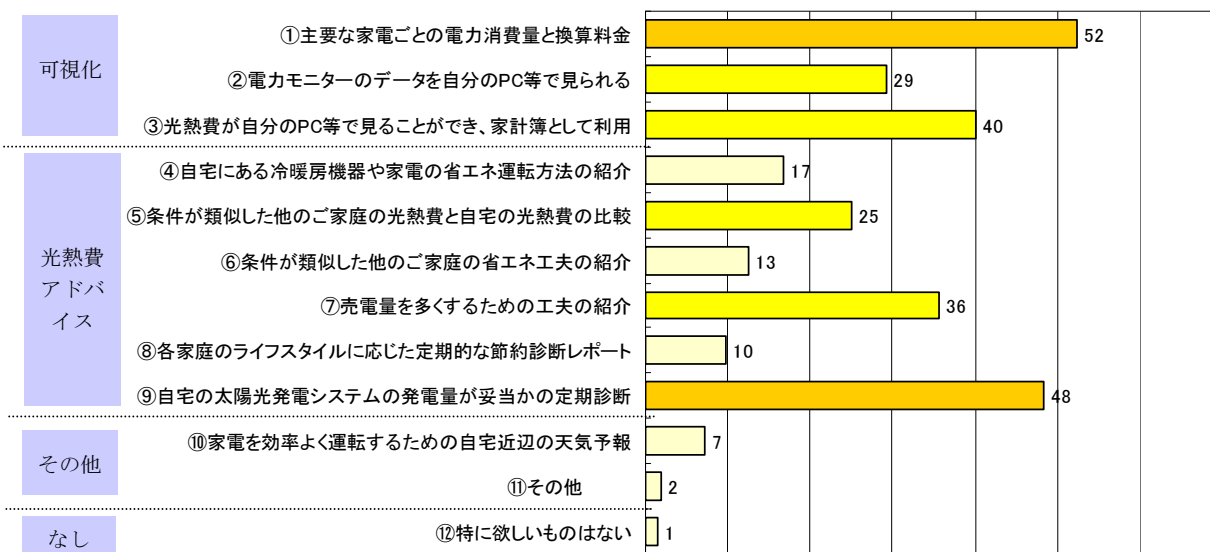
※PV電力モニター
 ・PVの発電量を表示するモニター
 ・発電量だけでなく、家庭内での消費電力量も表示することができる

3. 節電向上に欲しいものは、現在の電力モニターにない機能・情報

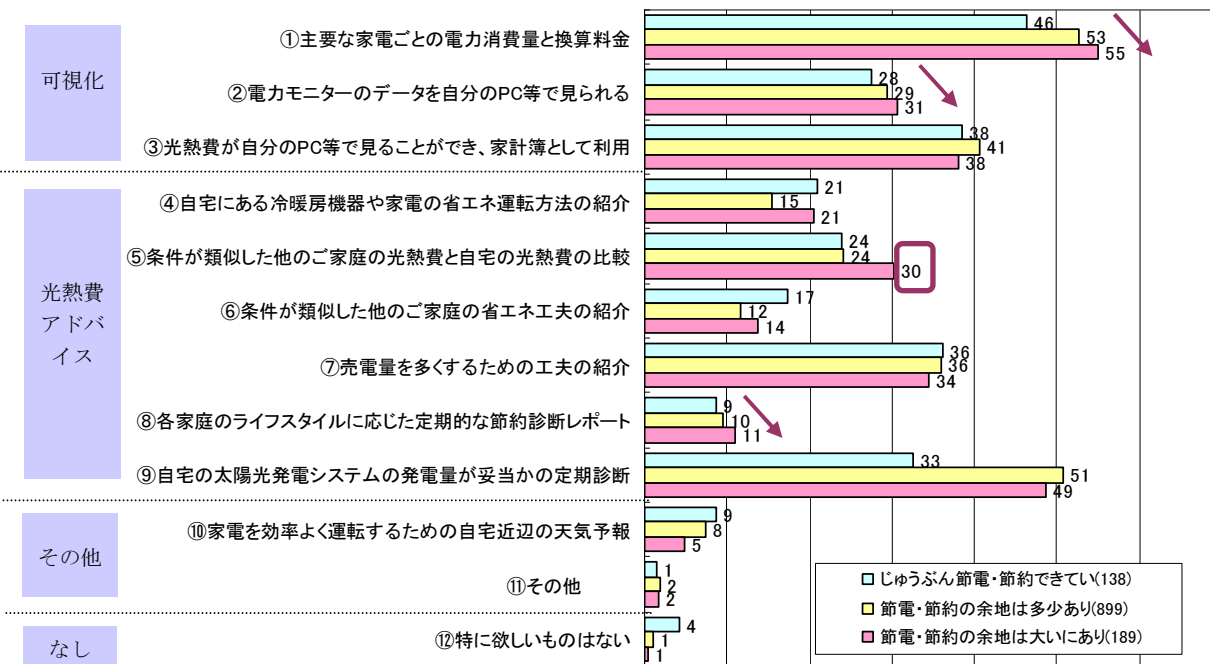
現在の電力モニターにない機能・情報で、欲しいものは「主要な家電ごとの電力消費量と換算料金と換算料金」、「光熱費が自宅のパソコンで見られる」、「自宅の太陽光発電の発電量が妥当かどうか」といったアドバイス機能を挙げています。

また、節電状況自己評価別に見ると節電の余地が大きいと感じている層ほど要望が高い傾向があります。

■新たな節電機能・サービスへの要望 (%) N=1226



■節電状況自己評価別 節電機能・サービスへの要望 (%)



以上